

## 指標の考え方と例

本行動計画の目標は以下の通りです。

### 【最終目標】

将来にわたり、サンゴ礁生態系が健全な状態で維持され、その恵みによって地域の人々が幸せに暮らしている状態を達成すること。

### 【2030 年度末における目標】

サンゴ礁生態系保全に向け、広域かつ中長期的視点の取り組みと、地域社会と結びついた取り組みの実践が加速されること。

これらの目標が達成される段階、すなわち、取り組みの実践が加速され（2030 年度末における目標）、サンゴ礁生態系の状態やサンゴ礁生態系に対する認識が向上し、地域社会がサンゴ礁の恵みを持続的に享受する（最終目標）という段階を考え、各段階における指標を検討します（表を参照）。検討にあたっては、ICRI が提案している指標や既存の計画（例：東京湾再生のための行動計画）における指標を参考にします。

表. 指標の考え方と例

取組の実践に関わる指標	サンゴ礁の状態と認識に関わる指標	最終目標に関わる指標
<b>全体</b>	<b>サンゴ礁の生物</b>	活動継続性
参加主体数	サンゴ被度*	地域経済
保護区数*	サンゴ多様度	幸福度
<b>重点課題1</b>	サンゴ回復*	
調査数	藻類被度*	
論文数	魚の現存量*	
<b>重点課題2-1</b>	<b>サンゴ礁の環境</b>	
対策農地数	栄養塩濃度*	
污水处理施設数	濁度	
<b>重点課題2-2</b>	赤土等堆積量	
エコツアーリズムの数	<b>サンゴ礁の認識</b>	
保全利用協定の数	地元意識	
<b>重点課題2-3</b>	サンゴ礁の価値	
サンゴ礁を利用した生業数	資金動員	

\*ICRI が提案している指標（<https://www.icriforum.org/five-as-of-the-coral-reef-indicators/>）